

令和3年度 東北大学出前講座

◇ 実施日：6月9日（水）

◇ 会場：本校 ※Web 会議システムによるオンライン実施

◇ 講演者紹介

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ① 文学部 . . . 茂木 謙之介 准教授 | ⑥ 医学部医学科 . . . 石井 直人 教授 |
| ② 教育学部 . . . 若島 孔文 教授 | ⑦ 医学部保健学科 . . . 三浦 昌人 教授 |
| ③ 法学部 . . . 鹿子生 浩輝 教授 | ⑧ 薬学部 . . . 浅井 禎吾 教授 |
| ④ 経済学部 . . . 結城 武延 准教授 | ⑨ 工学部 . . . 夏井 雅典 准教授 |
| ⑤ 理学部化学系 . . . 林 雄二郎 教授 | ⑩ 農学部 . . . 片山 知史 教授 |

◇ 聴講してみたの感想

① 文学部 茂木 謙之介 准教授

- ・講師の先生の研究内容を聞いて、自分の興味が湧いたものを突きつめていけばそこから立派な研究につながるとわかった。表象文化論のイメージについての考えに少し興味を持った。
- ・文学部はものの見方を知ったりそれについて考えたりする学部だと思っているのだが、私はそれらのことを楽しいと思った。言葉や思想は容易に人を操ることができるし、影響力がすごく大きいというところについてもっと詳しく知りたいと思った。
- ・大学は自分の好きな教科ではなく、自分の好きな専門分野について学ぶところだという話が面白いと思った。今は自分が何が好きなのか大まかにしかわからないけれど、これから勉強に取り組む時は「この教科の何が好きなのか」を意識しながらやってみようと思った。

② 教育学部 若島 孔文 教授

- ・教育学部の進路について、教員になる人が1%と聞いて驚いた。教育学部には、将来教育に携わりたい人が入るイメージがあったが、東北大学の教育学部で扱っている様々な分野を学んだり、沢山の経験をすることで、視野が広がり、広義の意味で教育を捉えられるようになったからそういう結果になったのだろうか、と思った。
- ・教育心理学コースの学びで、心理学の研究を通して世の中で起きている問題を解決することができるという部分に興味を持ちました。コロナウイルスが流行している中で一歩先を行く研究がされていることが分かってすごいと思いました。

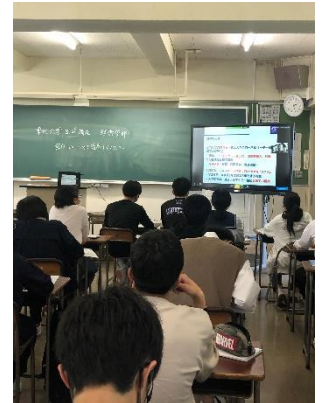


③ 法学部 鹿子生 浩輝 教授

- ・法学にはもっと堅苦しいイメージがあったが、今回の講話や模擬授業を通して、身近な問題にも法や政治が密接に関わっていることを知り、更に興味が湧いた。
- ・答えがないような問題を考えたり議論する体験を通してそのような問題を考える面白みに触れる事ができました。人によって考え方や判断基準も違って、同じ選択をした人でも答えにたどり着くプロセスが全く違うこともあったというところがとても興味深かったです。
- ・答えのない問題に対する考え方として注目する点を定めて考えましたが、より多くの考えるべき要素がある問題だったので、どの点に注目するかで変わる問題と言うものを様々な観点から考えてみたいと思いました。

④ 経済学部 結城 武延 准教授

- ・研究とは個人的衝動であり、「面白い！！」と思えることが大事。私はまだ心の底から面白いと思える学問に出会えていない。そもそも探す努力が足りないと思う。だから、日々、様々な事柄に関心を持って、自分の興味の矢印の方向を探っていきたい。
- ・歴史書、教科書など読み物を活用することが視野を広げる事のヒントになるということが興味深かった。
- ・江戸時代の頃、日本では大名が、外国では貴族が経済に大きな影響をもたらしていたというのを聞いて、その頃の経済は飢饉で経済が傾いていたというようなことしか知らなかったもので、歴史だけでなく経済の観点でも時代を観ることに興味が湧いた。



⑤ 理学部化学系 林 雄二郎 教授

- ・コロナウイルスの治療薬の研究は医学、薬学分野だと思っていたが、化学分野に含まれる部分も多い事がわかった。このように様々な分野の中心、根本を化学が担っているということが分かった。
- ・有機化学について、まだ授業では習ってないので全然知識がなかったし、少し難しいと感じたのですが、清涼感と苦味というのは真逆でありながら化学的に見ると実は右左の関係であるということに興味を持ちました。他にもそのような関係の物質はたくさんあると思うので調べてみたいです。
- ・化学がすべての科学の中心で、化学が唯一無からものを作り出すことができる学問だということを知り、化学に対してより興味や憧れが生まれました。世のため人のために役立つものを作り出せるような人になればいいと思います。

⑥ 医学部医学科 石井 直人 教授

- ・ネフローゼ症候群のように治療法があっても、メカニズムが解明されていない病気があることを知った。免疫分野の研究でも腎臓に関する知識が要求され、研究はチームで取り組むものだった。
- ・研究には出身大学や学部は関係なく、熱意が大切だということ。専門の学問に縛られずに横のつながりを持ったほうが良い研究ができるということ。
- ・研究医をあまり強く意識していなかったのが研究医の仕事の意義や研究することの楽しさを感じられた。ただ病気を治すだけが医学ではないと再認識できた。研究も視野に入れて行きたい。



⑦ 医学部保健学科 三浦 昌人 教授

- ・大学卒業後の進路、大学在学中の研究について興味が深まった。講師の方の研究内容（不整脈とカルシウムイオンの関連性）を聞き、東北大学で行われている研究への興味が深まった。
- ・AOⅡ期・Ⅲ期で受かった方々が優秀な傾向にあることを伺って、私もそのような人材を目指したいと感じたと同時に、AOで受験することを目標にして頑張っていきたいと思いました。
- ・個人研究についてどのようなことを進めていくのか疑問が多かったが、教授に質問してみて遺伝子のことから実際の患者さんのことまで自分の興味のあるあらゆることを専門的に学べるということが分かり、楽しそうだと興味が湧きました。

⑧ 薬学部 浅井 禎吾 教授

- ・新規性のあるものを見つけるときは、既存のものから探すのではなく、未開の地に積極的に挑んでいくことが大事だと思った。
- ・普段発現することのない眠っている細菌の遺伝子を発現させ、新生物質を作ることに驚いた。
- ・今まで薬学部だけに視野を向けすぎていたと思った。確かに自分のやりたいこともあるが、医学部にも視野を広げていきたいと思った。

⑨ 工学部 夏井 雅典 准教授

- ・集積回路の開発スピードの速さに驚いた。大学ではレベルの高いところに身を置き、様々な考え方をを持った人と交流できることを知り、東北大学に行きたい気持ちがより一層強まった。
- ・大学での本格的な研究や今の電子工学分野の世界の現状や課題目標を知ることができた。自分の知らない電子分野の、特に集積回路などの電子部品の作りも知ることができた。
- ・機械の消費電力を節約するには、アイドルストップのような仕組みを利用し、さらに機械ならではの問題点も考慮することで解決できる。



⑩ 農学部 片山 知史 教授

- ・先生の教えてくださった、耳石から魚の年齢がわかるということに興味を持ちました。今度魚を食べる機会があったら、調べてみたいです。
- ・今まで水産系の研究の話は聞いたことがなかったので、興味深かったです。魚の年輪のところで20歳くらいのももいて、そんなに長生きするイメージがなかったので、魚の寿命について気になりました。
- ・大学院に進む学生の殆どが、楽しいから進学して続けるのだということを聞いて、実際に研究室に配属されてからの活動がより気になってきた。私も、続けたいと思えるような研究室を見つけ、楽しく活動したい。